

主体的に

校長 三浦一富

今月の全校朝会、「今日は、ちょっと難しい話をします。でも、高学年の人には分かってほしいお話です。」と切り出しました。まず、**主体的**という文字を示します。次に、**なんのためにやるのか**という文を示しました。その意図は、以下のようなことです。

今年度、小木小学校教職員の研修テーマは、「主体的に学ぶ子どもの育成」です。指示待ちや、やらされて仕方なしにやるのでは、「主体的」とは言えません。「何のためにやるのか」を、子ども自身がしっかりと考えることが大切です。その上で、やった結果についても自分自身で振り返り、よいことは続け、ダメなところは直します。

学習以外の生活面においても、「主体的」に行動できる小木っ子を目指します。今月上旬、「あいさつ運動」が行われました。児童会の総務委員会を中心に、あいさつボランティアも募り、元気な声が校門前に響きました。

このあいさつにも、何のためにやるのか意味があります。あいさつによって心が通い合い、気持ちよく生活できる。また、あいさつを通して地域の人とつながり、そのことが防犯にも役立つ。いずれにせよ、あいさつが「なぜ」大切なのかを考え、自分なりのめあてをもって取り組める小木っ子であってほしいと思います。

また、こんなことがありました。ある朝、6年生が私のところに来て、話があると言うのです。聞いてみると、「(下校するときに見る)信号が、桜の枝が邪魔で見えにくくなっているので、何とかしてください」とのことでした。私は、その6年生に、なぜ話しに来てくれたのかを尋ねました。すると、「よく見えないと、全校のみんなが困るからです」と、答えてくれました。



その6年生は、登校班の班長を務めています。日々の務めから、下級生の安全を目的として、私に訴えに来てくれたわけです。現場確認後、早速、教頭先生に小木行政サービスセンターに連絡を入れてもらい、被さっていた枝葉を切ってもらいました。その結果、写真のとおり見やすくなりました。

後日、その6年生が「校長先生、ありがとうございました」と、お礼を言ってくれました。「いや、お礼を言いたいのは校長先生の方です。みんなの安全を考えて、主体的に行動してくれたこと、本当にありがとうございます」と、お礼を伝えました。

小木っ子が「主体的」に学習したり、「主体的」に行動したりする姿を、これからも励まし応援していきます。ご協力、よろしくお願いいたします。

